

神奈川県金融経済概況（2016年10月）

I. 概況

神奈川県の景気は、回復の動きが一服している。

すなわち、企業部門をみると、生産は持ち直しの動きがみられる。輸出は減少している。設備投資は一段と増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しているが、個人消費は弱い動きがみられる。この間、住宅投資は基調としては増加している一方、公共投資は減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 持ち直しの動きがみられる。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低迷しているものの、国内向けトラックが堅調なほか、国内向け乗用車も新車投入効果により増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 素材関連は、化粧品や洗剤が増加しているものの、石油・石炭などが減少しており、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器の生産規模の縮小の影響がみられるものの、電子部品・デバイスなどが下げ止まりつつあるほか、外需向け基地局通信装置が増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が増加しているものの、外需向け建機やはん用機械類が引き続き低調に推移しているほか、外需向け工作機械が弱含んでいることから、弱めの動きとなっている。

(2) 輸出： 減少している。

- ・ アジア・中東やヨーロッパ向けの自動車を中心に、減少している。

(3) 設備投資： 一段と増加している。

- ・ 16/9 月短観における、16 年度の設備投資は、前回調査比小幅下方修正となったものの、既存設備の維持・更新に加えて、研究・開発投資や業容拡大を企図した能増投資、工場・営業所の増設などが製造業を中心にみられており、全産業でも前年を2割程度上回る計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 8月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.28倍と、3か月連続で、統計が公表されている05/2月以降、最も高い水準となった。また、7月の現金給与総額は前年比+2.1%となった。

(5) 個人消費： 弱い動きがみられる。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調な一方、衣料品や身の回り品は、夏のセールスの反動に加え、季節商材も動きが鈍いほか、天候要因を背景とした客数減少から食料品なども冴えず、足もと弱い動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、足もと弱含んでいる。
- ・ 家電販売額は、パソコンなどの動きが鈍いものの、高機能製品を中心に白物家電やテレビなどが堅調なことに加え、携帯電話では新商品投入効果によって足もと幾分前年比マイナス幅を縮小させており、全体では下げ止まりつつある。
- ・ 新車登録台数は、軽乗用車では、小型乗用車との競合激化に加え、燃費データ不正問題の影響もあって、前年を下回っている。もっとも、小型・普通乗用車では、ハイブリッド車の需要が堅調な中、新車投入効果から前年を上回っており、全体では下げ止まりに向けた動きがみられる。

《参考》

- ・ 県内のホテル・旅館の稼働状況は、横浜市内を中心に堅調に推移しているものの、観光・レジャー施設の利用客数をみると、足もと天候不順の影響から前年を下回る先が多く、総じてみれば弱めの動きとなっている。

(6) 住宅投資： 基調としては増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、分譲マンション、持家などが減少した一方、貸家が増加している。

(7) 公共投資： 減少している。

- ・ 9月の公共工事請負額は、独立行政法人、国などが減少したことから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：7月+1.8%→8月+1.4%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：7月1.267%→8月1.255%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：7月+2.8%→8月+2.5%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。